NO ４２２

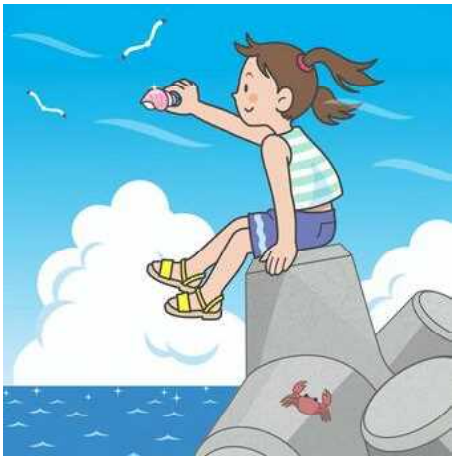
令和５年５月８(月)

3学年だより

夢の宅配便

3年学年主任
水野　喜代治

「夏」



夏が確実に近づいている
頬を通り過ぎていく風に、
新緑の葉を通り抜ける日差しに
春とは違う夏のエネルギーに変わっていくのを感じる

夏が来れば
目を細めたくなる強い日差し、木綿のシャツを通り抜けていく潮風が好きで海に行く
理屈なしに繰り返す波を見ていると
いつの間にかスーと気持ちが楽になっていく

私は
中学生の時から夏になると一人でこのテトラポットに座って海を見た
夏を迎える心に衣替えをしないと

近づく夏を意識して
晴れの日は涼風がタンポポの白い綿毛を空へ運び
雨の日は紫陽花の花に隠れてカタツムリが雨宿りをする
雨が上がった空は天に抜けるような青で、白いソフトクリームのような雲を浮かべる

さあ心のドアを開けて、初夏の風を呼び込もう
サーフボードのように季節の波に乗って夏に溶け込むために